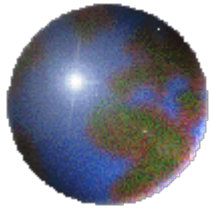


第1回「フィールドサイエンスの手法構築に向かって -----臨地研究の実践と理論」



AA研FSCは、このたび

- ・フィールドでの調査研究というものはいかなる意味や重要性を持っているのか？
- ・各分野におけるフィールド調査は実際のところいかにして実践されているのか？
- ・フィールドの調査で得られた知見と広義の理論化や理論構築の作業はどのように連続しているのか？

といったテーマについて、密度の濃い報告と突っ込んだ質疑応答を行うべく、人類学、言語学、歴史学を中心に、異なった分野で活躍する研究者をお招きし、AA研フォーラムとの共催でコロキウムを開催することいたしました。

今回お招きする松井健教授(東京大学東洋文化研究所)は、狭義の文化人類学はもとより生態人類学など自然科学系の諸分野にも通じ、沖縄からアフガニスタン、さらに最近では日本の民芸運動にいたる豊富なフィールドワークを元に、分野横断的に多くの業績を挙げられている第一線の人類学者です。また言語学の立場から中山俊秀さん(所員)が、言語学にとってフィールドワークが持つ意味や重要性などのテーマを含めて話題提供をおこないます。その後、黒木英充(所員)が歴史学ないし地域研究の立場からコメントを申し述べたあと、総合的な議論を行う予定しております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

日時: 2006年12月6日(水) 15:00-18:00、場所: AA研306室

[プログラム]

司会: 真島一郎(AA研)

15:00-15:05: 趣旨説明: 床呂郁哉(AA研)

15:05-16:05: 基調報告: 松井健(東京大学東洋文化研究所)「人類学はフィールドサイエンスたりえるか？」

16:15-16:45: 第2報告: 中山俊秀(AA研): 言語学の立場からの報告

16:45-17:00: コメント: 黒木英充(AA研): 歴史学・地域研究の立場からのコメント

17:10-18:00: 総合討論